

令和3年度第1回南砺市文化財保存活用地域計画協議会 会議録

日 時：令和3年6月24日(木) 14:00～15:30 場 所：南砺市役所大ホール
出席委員：12名 上野副会長、杉崎委員（Zoom参加）、永瀬委員、西井委員、安カ川委員、中島委員、山崎委員、山下委員、中臺委員、大橋委員、山道委員、吉田委員（代理：池田副主幹）、
欠席委員：3名 菊池会長、渡邊委員、米田委員
傍聴人数：0名

開会

委員の任命

ブランド戦略部長あいさつ

委員紹介

会長・副会長選任（委員より事務局一任の声があったため、事務局にて菊池委員を選任。副会長には菊池委員が上野委員を選任された）

副会長あいさつ

協議事項

1. 南砺市文化財保存活用地域計画協議会設置要綱、地域計画の概要について

事務局 資料1、資料2について説明

【調査等の住民周知について】

委 員 令和3年度と令和4年度のホームページの作成にあたっては、未指定文化財も含めてしっかり把握調査して、市のなかで整理していくことが大変重要。計画というものは、なかなか一般の方々が目にするのではないため、ホームページなどでしっかり発信することが非常に重要。このホームページ作成はどのようなものを意図・イメージしているのか。

事務局 既存のホームページを使って計画の進捗状況や調査状況を随時お知らせしていきたい。

委 員 計画の進捗状況を、文化・世界遺産課のホームページに掲載するのか。

事務局 南砺市のホームページの他に、文化芸術アーカイブズでも周知を行おうと考えている。

委 員 市民が手軽にアクセスでき、南砺市がどれくらいの文化財があるのかということを目の当たりに感じ取れるサイトになると非常に素晴らしい。ぜひ工夫してほしい。

委員 ホームページ以外にも広報を活用して住民に向けて周知していくことが大事。また、3年度の把握調査と、4年度の市民アンケートは、それぞれどういう意図でやるか、どういう目的でやるかということをしかりと分けたほうがよい。未指定の文化財については、アンケート以外にも、県、市町村で過去に行った調査資料から拾い出す作業も併せて行った方がよいと思う。

2. 南砺市文化財保存活用地域計画構成案、地区センターアンケートについて

事務局 資料3、資料4について説明

【未指定文化財等の把握について】

委員 合併前の8町村で文化財に指定されていたが、合併した際に指定を外されたものはないのか。もしあるのであれば、未指定文化財を拾い出す際に重複しないよう配慮が必要。また、それらの中にも価値のあるものがあれば、県の文化財や国の文化財に指定が上がっていくものかどうかも含めて調査できればよい。

委員 調査の対象地域は南砺市全体だと思うが、隣接する、例えば医王山については石川側との関係はどうか、水系からすれば庄川の下流域、上流域との関係はどうかなど、調査対象と関連するものもある程度視野に入れて調査したほうがよいのではないか。

【地区センターアンケートについて】

委員 問2について、聞いたことはあるが、見たことがないというものは知っているものとして回答してもよいか。

事務局 知ってはいるけど、現地に行ったこともないし本当に聞いただけというのものもあるかと思うので、アンケートの記入方法をもう少し検討する。

委員 記入者氏名は一人にするのか、その地区を代表するような人にするのか。誰が答えるのかということを確認にしたほうがよい。

事務局 地区交流センターの事務局に依頼し、基本的には事務局の内のどなたかに書いていただくが、やはり古いことになると地域の有識者に聞くなどして記入してもらえればと考えている。

委員 アンケート調査は、地域計画を作るにあたり、どのように使用、活用しようと思っているか。

事務局 集計結果というものもデータとして載せたいと思っている。

委員 未指定文化財のリスト化の基礎資料と考えているのであれば、文化財の概要や写真も必要になる。いわゆるデータベースとして必要なものも調査項目として必要ではないか。令和3年度の把握調査について、問1は未指定文化財の情報収集だが、問2以降は意識調査となっており、令和4年度に実施する市民アンケート調査と内容が重複してしまわないかが気になる。令和3年度の把握調査は未指定文化財のリスト化のための調査に絞ってもいいのではないか。

委員 アンケートの中に「地区交流センター」とあるのは市民センターのことではなく、地域づくり協議会のことか。

事務局 そのとおり。

委員 問4だが、説明板の製作とか設置とかこれから予算のかかることが書いてあるが、計画の策定が終わってから、この問4にある整備と活用の取り組みを実施される予定はあるのか。

事務局 アンケートで意見等いただき、具体的な措置を講じる。その中で看板の整備とか、文化財の研究などへの予算づけは、計画が終了してから始めることになる。

【地域計画構成案について】

委員 関連文化財群の考え方は結構大事。南砺市は文化財の数が非常に多く、旧町村が合併したことで逆にその旧町村の境界を超えた文化圏というものをしっかりと提示できるという意味では非常によい状況にある。旧町村が実は境界を越えてつながっているという発想を市内全域に広げてストーリーとして捉えることにチャレンジしてほしい。

委員 関連文化財群とそれに続く文化財保存活用区域は、南砺市の場合必須だと思っている。世界遺産、ユネスコ無形文化遺産、日本遺産の3つが揃っていることは全国的にみてもすごいこと。8つの町村が合併しているので、どこか1つだけ集中的に取り上げるのではなく、それぞれの地域の良いところや文化財の特徴を、3章にしっかりと書いて、今までは点で考えていた文化財をストーリーや地区全体で捉え、今後の保存活用の方法や、事業展開を考えていけば、よい計画になると思う。

委員 文化財の活用の面では、何に基づいて骨子や素案が構成されていくのか気になった。高齢化が進んでいる中で、その文化財を活用していくために、若い世代の方々にも意識を向けてもらうことが大事になってくると思う。

事務連絡

ブランド戦略部長あいさつ

閉会